



# 週報

今月のテーマ 米山月間 経済と地域社会の発展月間

第1589回例会 2019年10月10日 Vol.34/No.14

■本日の例会 / 第1590回 令和元年10月17日(木)

●会長・幹事報告 ●職場訪問 アリスこどもの家幼稚園

【出席率状況報告】

・会員数…………… 55名  
・出席者…………… 35名  
・欠席者…………… 20名  
・出席率…………… 63.64%  
・9/26の修正出席率… 70.91%

■会長挨拶

篠原英介 会長



企業生存率と企業30年説

「企業生存率」とは、起業して何年後にどれくらい生き残っているかを表すものだそうで、いくつかの統計が出されています。

かなり幅がありますが、つぎの通りです。

1年後…40%～98%

5年後…15%～80%

10年後…5%～70%

20年後…0.3%～50%

30年後…0.02%～15%

低い方は国税庁も含めた全登記数から算出したやや辛いもの、高い方は産業界で実情に沿ったものようです。

規制緩和で、そもそも起業し易くなったことや、ペーパーカンパニー等実態の乏しいものの多くが簡単に事業を止めたりする事の影響もあると見られています。

ただし、起業して30年後に事業を継続できている企業は1割あるかどうか、というのは間違いのないようです。

私が学生時代の30年前は、「企業60年説(60年に壁がある)」というテーマが良く取り上げられていましたが、今は半分の30年だそうです。

みなさんの事業所も同じように創業からいくつものハードルを越えてこられたことでしょうか、最初の30年を迎えるためには2つのハードルがあると考えます。

一つ目は事業の資金・売上増大・組織拡大といった創業者が受ける困難です。ごく当たり前ですね。

二つ目は、事業継承で、今、最も重要で困難とされているものと言えます。

この2つを超えられない企業が大半だということです。

自身で考えると、今年で51年目を迎えました、何とかこの2つは超えられました。

実際には、14年目に倒産し、多感な頃に強烈な

体験をしたのですが、これこそ引っ掛かったハードルだったのでしょう。

そして、34年目には創業者の急逝で継承のハードルが早めに来ました。何とか切り抜け50年を迎えたところです。

そして、今、まさに第三世代への継承のハードルが待ち構えています。ここを切り抜けられれば60年説を覆せます。ただ、きちんとクリアしなければ、60年以降保証されるものではないため、自らに律して努めていきたいと考えています。

一方で、私たちクラブも創立34年目を迎え、まさに創立時の先輩がいらっしゃる間に、次世代である私たちが後に続く未来のメンバーのために体制を強固にするよう働きかけなければいけないと考えています。

みなさんと協力して高めて行きましょう!

■幹事報告

西橋龍博 副幹事



・日本事務局より

10月のレートは108円と連絡がきております

・川島直前ガバナー事務所より

10月15日にて事務所を閉鎖いたします

■ゲスト卓話

宮崎日日新聞

編集委員室 俣野秀幸 様



「地域発展のカギは人づくり～NIEとNIB」

まず自己紹介です。私は1991年入社で今年29年目です。そのほとんどを新聞記者として働いてきました。令和の時代になりましたが、平成の30年間、宮崎県内の多くの出来事を間近で見ました。特に印象に残っているのは2001年のシーガイア経営破綻。このときは専従

取材班の1人でした。それと2010年の口蹄疫。このときは報道部デスクをしていて、連日夜中の2時、3時まで仕事でした。仕事や取材の裏話はいろいろあって面白いのですが、今日いただいたテーマはまた別なので、それは次の機会ということで。

現在は「編集委員室」という部署に所属していて「編集委員」という肩書きです。編集委員室は室長を含め4人の編集委員がいます。全員が社歴30年前後の管理職のベテラン記者で、自分の好きなテーマで自由に取材して記事を書くことを許されています。3日前の宮日の1面で「県内ふるさと納税」に関する連載が始まりましたが、私の記事です。読んでもらえるとうれしいです。編集委員室としては、あと今回のような対外的な仕事もしています。

#### 【なぜいまNIE(NIB)なのか】

では、本題です。本日は「地域発展のカギは人づくり～NIEとNIB」というタイトルにしてみました。「地域発展のカギは人づくり」というのはごく当然のことで、宮崎を代表する経営者や事業者であるみなさんを前に「釈迦に説法」かと思います。そこで新聞業界の人間として、NIEとNIBの面から話してみたいと思います。ここにいらっしゃるみなさんは、それぞれの社会的立場とは別に、子どもを持つ親、あるいは孫を持つおじいちゃん、という立場でも聞いてもらえるとうれしいです。

みなさんの中で「NIE」「NIB」という言葉を今回初めて聞いた、という方はどれくらいいらっしゃいますか？まずNIEがあって、NIBはその派生語です。NIEは「ニュースペーパー・イン・エデュケーション」の略です。

日本語では「教育に新聞を」と訳します。平たく言ってしまうと「授業など学校現場でもっと新聞を活用しよう」というムーブメントです。NIBのBはビジネスです。特に最近は、若手ビジネスマンに仕事でもっと新聞を活用してもらおう、ということです。

いま、NIEは新聞業界あげての取り組みです。大きな理由の一つは若い世代を中心とした新聞離れです。若い世代が新聞を読まなくなり、新聞社としては将来の読者を育てる意味で、子どもたちが新聞に触れる機会を作る必要があるわけです。これは業界内の内向きな理由ですね。

もう一つの大きな理由は、新聞を含めた活字離れによる子どもたちの国語力の低下です。これはひいては学力の低下や人間形成にも大きな影響を与えていて、私も個人的に最も懸念している点です。

NIEは戦前にアメリカで始まりました。日本では1980年代から本格的に取り組みが始まり、全国に広がりました。当初、その狙いは子どもたちに社会に関心を向けさせ、社会の一員としての自覚を持ってもらう

ことでした。しかし最近は、社会や子どもたちを取り巻く環境の変化により、NIEの狙いに変化し、重要性が増しています。

実は今年の3月まで日南支社長として3年間、日南に勤務しました。現地の学校からの依頼で、小中高校で20回以上、NIEの授業をしました。そこで学校現場の様子を見たり、教職員のみなさんと情報交換したりして、個人的にもますますNIEの取り組みは重要だと、危機感を強く持つことになりました。では、具体的な背景について個別に話をします。

#### ■「短文」時代の文章離れ

ネットやSNSの普及により、短文がもてはやされ、長文が理解できない子どもが本当に多いです。国語は学力の基礎ですが、そこが危機的な状況です。学校の先生から聞いて冗談かと思いましたが、テストでまず、設問の文章の意味が分からない、何を聞いているのかが分からない、という子どもが本当に多い。

新聞や本を読まず、ネットやスマホで文章をスクロールしながら読むのは時代の流れです。しかしネットなどでは長文、ましてや起承転結の整った、あるいは理路整然とした文章にはなかなか触れられない。あるいは自分から触れようとはしません。文章を読んで自分なりに理解する、という癖がつかないのです。宮日の会社の中でも、長い原稿をうまくまとめられない若手記者が増えていて、指導役であるデスクがかなり苦労しています。

#### ■キャリア教育の重要性

(社会をドロップアウトしないために)

日南学園の部活動特待生クラスで、新聞を持っていったNIEの授業をしたことがあります。野球部を除くサッカー部、卓球部などの生徒でした。彼らは県外、市外からの子がほとんどで、全寮制です。クラスも1クラスです。つまり彼らの毎日の生活は、同じ顔ぶれでの授業、部活、そして寮です。唯一、外部の社会との接点は、ほぼ全員が持っているスマホでした。しかし、先ほど話したように自分の関心のあるサイトやページしか見ない。サッカー部の生徒ならサッカーの記事ばかり見ている。つまり社会性が育たないのです。

実は、最近の学校現場で最重要テーマの一つが「キャリア教育」です。私たちの子どもの時代にキャリア教育という言葉は聞いたことありませんでしたが、いまは盛んに言われます。では「キャリア教育」とは何か。仕事について知る、自分にあった仕事を選ぶ、などが当初の取り組み、目的でした。みなさんも学校の要請で職場体験を受け入れたことがあるかもしれません。

しかし最近のキャリア教育はそんなきれいな事ではなくなっている。学校の先生たちが言います。最近

は「いかに社会をドロップアウトせずに生きていくか。」「生きる力」を養う、ということです。それほど社会の変化が大きくて速く、子どもたちがついていけなくなっている。自分の殻に閉じこもらず、日ごろから社会の動きに触れ、関心を持つこと。大人の立場から言えば「関心を持たせること」、これはとても重要です。

#### ■「表現力」重視の時代

(大学入試改革、全国学力テスト)

こういった子どもたちを取り巻く時代の変化に対応した取り組みが始まっています。大学入試がいまのセンター試験をやめ、2020年度から大学共通試験が始まります。簡単に言うと、「○」か「×」しかないマークシートの知識詰め込みを改め、「記述式」を導入します。文章を書かせるわけです。つまり自分の考えを自分なりに表現する力を重視する時代になってきています。

全国学力テストはご存じですか？文部科学省が全国の小学6年と中学3年を対象に、一斉に国語と算数、中学はこれに英語を加えてテストを実施します。全国的な学力レベルを見るわけです。4月に実施した2019年度のテストの結果が公表されています。本県は平均正解率が全国平均を上回ったのは小学6年の国語だけでした。

ただ、国語力については県内でも地域差、学校差がかなりあるように感じられます。実は私たち編集委員の仕事の一つが、新聞の投稿欄に掲載する投稿を選ぶことです。宮日では「窓」と言います。窓には小中高生からの投稿を掲載する「若い目」というコーナーがあって、毎月1000通以上の投稿があり、われわれが全部目を通して掲載作品を選んでいきます。

そこで感じるのは、送られてくる作文のレベル差です。手元にお配りした作文は実際に掲載されたものです(夏ごろ岩戸小かつ6年生の作文)。では、ボツになった作文が私の手元にありますので、読み上げてみます。プライバシーの問題があるので学校名などは伏せます。比べてみてどうですか。いい作文を送ってくる学校の先生に電話で話を聞くと、それなりの指導をしています。つまり国語力は才能ではなく、指導で身につくものなのです。

#### ■自己投資、教育費としての新聞

新聞を読む習慣がある子どもは文章が上手で、学力が高いというのは実感として事実です(宮崎西高付属中など)。先ほどの全国学力テストの分析結果として、文部科学省もそのことを指摘しています。一番良いのは家庭で新聞が居間にあって、それをネタに家族で社会の出来事を話し合ったりすること。スマホではこうはいきません。

最近子どもを持つ親も新聞を読まなくなりました。中高年以上にとっては今でも新聞は生活の必需品です。しかし今の40代以下はそうではなくなりました。いまはスマホが必需品です。家族でみんな1台ずつスマホを持つ時代です。

では、今の時代、若い世代にとって「新聞」はどういう存在なのか。それは、社会人としての自己投資だと考えてほしいと思います。英会話やスポーツジムに通うのと同じように、自分を高めるためのものだと。あるいは子どもがいれば教育費です。身近に活字や情報がある環境をつくってやることです。タバコがいま1箱500円以上する時代です。1カ月の新聞代3300円をどう思うかでしょう。

#### ■社会人にとっての新聞

20代くらいの若い社会人も新聞を読まない人が増えています。しかし地域で働く、あるいは営業をするのに、地域の出来事や課題、地域の未来について知らなくて仕事になるのか、ということです。知り合いに大手証券会社の宮崎支店に勤務する20代の女性社員がいます。彼女は職業意識が高く、仕事柄、日経新聞を取っているということでした。そこで宮日もお願いすると「ちょうど購読を考えていたところでした」とすぐに1部取ってくれました。話を聞くと、宮崎で証券会社の顧客に大口の投資家は少なく、老後の資金を手堅く運用する普通の高齢者が多いということです。そういった人たちと営業で話をするとき、県内の話題に疎いと営業にならないということでした。

宮崎国際大と宮崎公立大で授業をしたときの話です。「2026年に宮崎で大きなイベントがあります。何でしょう」と尋ねたとき、2巡目宮崎国体と答えられたのはわずかでした。そのときに話したことは「国体は単にスポーツイベントでスポーツ関係者や行政だけの話」と考えてはだめだ、ということです。国体期間中、50万人の関係者が宮崎を訪れます。その宿泊、交通、食事をどうするか。国体に向けて新しい施設もできます。雇用も生まれます。つまり宮崎で働く多くの人に関係してくる。地元宮崎で就職しようと思ったら、地域の情報を知らなくては仕事で遅れを取ることを説明しました。

例えば、米良企業グループは社員教育の一環として、全従業員分の宮日360部について、会社で購読費を持ってきています。

#### ■「地元で人を育てること」「地元に残すこと」

今日は「地域発展のカギは人づくり」ということで話をしましたが、ポイントは2つあると思います。

1つは「地元で人を育てること」。NIEについて詳しく触れましたが、ぜひ宮崎で優秀な子どもたちを育

ててほしいと思います。2つめは「地元に残すこと」。この点はこのにいるみなさんの肩にかかっているといえます。宮崎中央ロータリークラブは高校生の就職活動を応援して、就職模擬面談会を開いています。県内の高校を今春卒業した人の県内就職率は58パーセントで全国44位でした。これでも良くなった方で、数年前は全国最下位でした。毎年のように卒業生の半数が県外へ出ています。給料など待遇で都市部にかなわない面も確かにあります。しかし宮崎にも素晴らしい就職先があることを知ってもらい、宮崎で働き、宮崎の発展に貢献する人材をつくり、残していくことが、ここにいるわれわれの務めだと思います。

以上で話を終わりますが、最後に1点だけ宣伝を。宮日では学校の依頼に応じて、各学校へ出向く「NIE出前授業」をやっています。これと同じように会社や職場に出向く「NIB出前授業」もあります。いずれも費用は一切かかりません。ただ、担当部署はわれわれ編集委員ではなく、ほかの部署になります。要望や問い合わせがあれば、私が中に入ってつなぎますので、お手元の用紙にある電話、あるいはメールに遠慮なく連絡ください。今後とも宮日をよろしく願います。

(了)

「若い目」への投稿より～高千穂町岩戸小6年

「熊本城よりも最初に家を建てるべき」

「スマホは目の敵」

「岩戸に活気を」

「体罰禁止の法律について私の考え」

「お年寄りも持っておこう運転めん許証」

「点字ブロックをふさぐ自転車」

「見知らぬ人を殺すのは疑問」

「きれいな未来の町へ第一歩」

「雨」

ぼくは、雨がきらいです。理由は二つあります。一つ目は、外で遊べなくなるからです。ぼくは昼休みに外で遊ぶのが大好きです。二つ目は、くつがぬれてしまうからです。雨がたくさんふると水がたまってしまいちょっとずつくつがぬれてしまいます。

このことから、ぼくは雨がきらいなんだなあと思いました。でも、農家の人にとってはうれしいことだと思うから、きらいなひと好きな人もいるんだと思います。(6年男子)

「弟と遊んだよ」

今日、弟と遊びました。木曜日に、おもちゃ箱の整理をしたところトミカのおもちゃがたくさんできてきました。今日、ひまだったので夕ごはんができるまで、いっしょに遊びました。トミカで遊ぶとなぜか夢中になって遊んでしまいます。ぼくは、とくにけいさつ車両が好きです。ヘリコプターや、飛行機とかも好きです。大きなおもちゃが三つあって、三つとも合わせて遊びました。とても楽しいです。兄弟仲良く遊んでいます。ときどきけんかをしたり、こわれたり、するけどすぐに仲直りしたり直したりします。こんなに兄弟仲良く遊べるなんておもしろいと思いませんでした。(5年男子)

「1学期の思い出」

わたしの1学期の思い出は、ことぶきえんに行ったことと、河野先生が来たことです。ことぶきえんが、1学期の思い出なのは、ことぶきえんは広がったし、高れい者の人たちや、しせつの中のものが見れたからです。高れい者の人たちについてたくさん知れました。しせつの中が広がって「すごいなあ」と思いました。5月には、教育実習生の河野先生がクラスにきました。河野先生と名前が似ていました。楽しく3週間をすごせたと思います。いっしょに給食を食べたり、遊んだりして、楽しくすごせました。名前が似ていて、びっくりしました。すごく似ていたので「すごいな。似ている人がいるんだな」と思いました。1学期では、ことぶきえんに行ったり、河野先生が来たりして、楽しい時間をすごしました。また、楽しい時間をすごしたいです。(5年女子)

## ■■出席委員会報告

外山政典 委員

### ◆9/26メイクアップ者名 (敬称略)

志戸本和孝、高野広美、長岡紀行、西橋龍博  
秦 喜八郎、三輪修珍

### ハッピーボックス (敬称略)

●江島 寛…本日、娘が入籍します。先日、東京で結納式をやり、相手の父親に「娘を不幸にしたら弁護士の全生命を賭けて貴様の息子を叩き潰してやる」と言おうとしたのですが、娘の幸せそうな顔を見ると言えませんでした(涙)

## 発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0806 広島1丁目3番地3 秀豊ビル 4階 TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-9170  
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)  
会長/篠原英介 副会長/小村賢一郎 幹事/江口健一